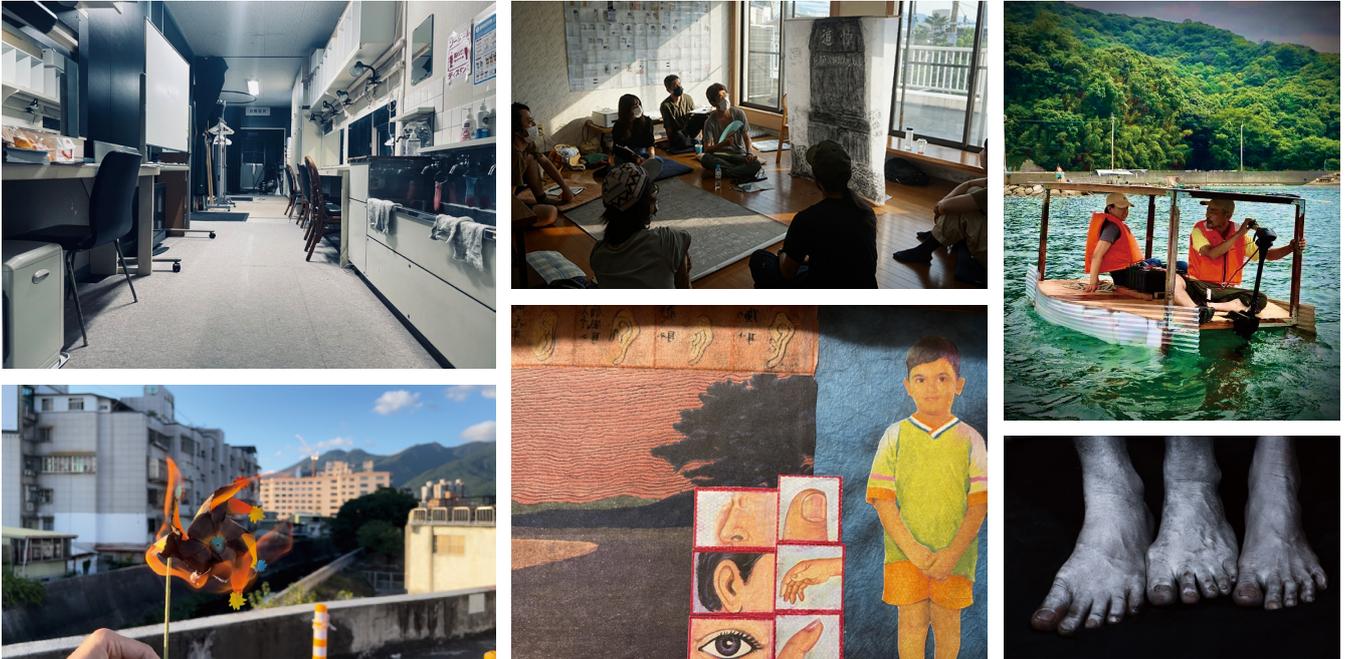




一般財団法人川村文化芸術振興財団

2023年度 ソーシャル・エンゲイジド・アート支援助成決定！



**2023年度助成対象プロジェクト** (全6つのプロジェクト)

助成額：50万円～150万円／件 総額：400万円

- Ⓐ 飯山由貴 「わたしたちとあなたたちの芸術の作りかた」
- Ⓑ 小鷹拓郎 「越境するモキュメンタリー」
- Ⓒ OMP+As 「平和資料館とアーティスト」
- Ⓓ 胡宮ゆきな 「Re-heat and Reborn」
- Ⓔ ハイドロプラスト 「“日本一海洋プラゴミが流れ着く” 対馬で漂着ゴミを素材にソーラーカヤックを作るプロジェクト」
- Ⓕ Bady Dalloul 「Inner Child」

(順不同)

一般財団法人川村文化芸術振興財団(理事長 川村喜久)では、ソーシャル・エンゲイジド・アートに対する支援助成事業を2017年に開始し、今回2023年度は6回目の公募と審査を行いました。

2023年度は、昨今の時代の中で多種多様な社会課題の意識が高まり、ソーシャル・エンゲイジド・アートを通じて戦争や平和に対するテーマ、国境や移民に注目するテーマ、環境汚染に関するテーマなどを取り上げるプロジェクトが日本国内外から47件(海外6件、国内41件)の応募がありました。今回選ばれたプロジェクトは、このような現代社会に目を向けテーマ設定された6つの多様なプロジェクトが応募の中から採択されました。2023年度は助成対象の当該プロジェクトを実施するためのプロトタイプ(事前ワークショップ、試作、レクチャー、映像等)も含め、2023年度に発表していただきます。

コミュニティや社会にコミットし、地域社会や住民とともに制作や活動を実施し、より良い社会モデルの提示や構築を目指す日本国内で実施されるソーシャル・エンゲイジド・アートプロジェクトがより活発化していくことを願います。



### わたしたちとあなたたちの芸術の作りかた | 飯山由貴

2018年に公布・施行された「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」に欠けている視点と理想を、障害種別の異なるそれぞれの現場の声を集め、問題提起をする。わが国の障害者による芸術制作で広く普及している実践例として、純粋な視覚表現（絵画・彫刻に相当する造形）の制作現場を訪ねる。権威的な展示の場では「他の作家と平等にするため」に情報提供がされないことが多い、作品の背景となる他の要素、制作プロセスや生活、スタッフ、家族をはじめとしたキーパーソンとの関わりについて関係者にインタビューをし、映像での記録を撮影する。関係する個人やコミュニティが交ざり合う機会を中間発表の場として設ける。

**飯山由貴：**

美術作家。映像作品の制作とともに、記録物やテキストなどから構成されたインスタレーションを制作している。過去の記録や人への取材を糸口に、個人と社会、および歴史との相互関係を考察し、社会的なスティグマが作られる過程と、協力者によってその経験が語りなおされること、作りなおされることによる痛みと回復に関心を持っている。近年は多様な背景を持つ市民や支援者、アーティスト、専門家と協力し制作を行っている。



Photo: Shingo KANAGAWA



### 越境するモキュメンタリー | 小鷹拓郎

多くの人種、言語、宗教で成り立つ多民族国家インドネシアやパプワを訪れ、フィクションとドキュメンタリーをかけあわせたモキュメンタリー手法の映画を制作する。紛争、人種差別、労働、マイノリティ、死生観。宗教と自然が密接な人々 / 土地の価値観を通して、先進国が直面している様々な問題を解剖していく。現地の芸術家や有識者と協力しながら人類の分断と共存の可能性を探る。

**小鷹拓郎：**

アーティスト、映像作家。近年は原発問題や外国人技能実習生の差別問題などをテーマにしたモキュメンタリー映画の制作に取り組む。オーバーハウゼン国際短編ドキュメンタリー映画祭、奥能登国際芸術祭、ジャカルタピエンナーレなど国内外の映画祭や芸術祭で作品発表。2017年度文化庁新進芸術家海外研修員、2019年度ポラ美術振興財団在外研修員。

<http://takurokotaka.net>



### 平和資料館とアーティスト | OMP+As

本プロジェクトは長崎市にある戦争の加害者としての歴史を伝える場所「岡まさはる記念長崎平和資料館」を起点として日本の戦争の加害性や現在も継続している日常の中にも潜む国家主義、植民地主義の思想に対して新たな対話を生み出すことを目指しています。1年間継続したワークショッププログラムを行い、資料館に存在する記録と向き合うと共に、実際に長崎の町に点在するモノや場所にアプローチしながら複雑な歴史を少しずつ紐解いていきます。問題の一端に実際に触れ、表現を通して立ち上げてみることで、歴史が語られている資料館の「内」と、長崎の街という問題が実際に存在している「外」とをもう一度つなぎなおすことを試みます。

**OMP+As：**

OMP+Asは「岡まさはる記念長崎平和資料館」の3階を間借りして不定期にオープンするアートスペースです。同館の設立意志に賛同し、資料館の資料をアーカイブしながらリサーチを行っているアーティスト達が、2021年から資料館の人々の協力を得ながら運営しています。アーティストが館との関わりの中で学び感じた問題意識や、培ってきたネットワークを起点とした展覧会や上映会等のイベントを開催しています。

<https://sites.google.com/view/omp-as/>



### Re-heat and Reborn | 胡宮ゆきな

誰もが迎える老いや死に対する向き合い方を問い直す試みであり、超高齢化社会を生き抜くためのアイデアを沖縄の長寿のお祝い「カジマヤー」の風習を用いてプロジェクトを進める。地域社会のコミュニティに根ざし伝承されてきた伝統文化や風習を、日本以外の文化や史実と接続し可視化させ体感、記録する事により、個人の生と世界の歴史との繋がりを認識する。中華圏の宗教儀式や葬儀文化でよく見かけ、欠かせない紙細工「紙紮」（日本語読みはシサツ）の文化を引用して、93歳で亡くなった祖母の為に、2023年10月21日カジマヤーの日にパレードを執り行う。このプロジェクトは、死者とのコミュニケーション方法の一つの提案でもある。

**胡宮ゆきな：**

沖縄県生まれ。父方のルーツが中華圏で母方は沖縄という環境から、沖縄で生活しながら、中国、台湾、アメリカの影響を受け成長した。現在は、自らの家族の歴史を調査しつつ、作品化を進めている。その作品は沖縄に繋がり、台湾に繋がり、中国、アメリカの史実と繋がる事に興味を抱き、現在台湾にて制作拠点を置く。

<https://yukina-art.wixsite.com/komiyayukina>



NEXT ART TAINAN



© Hydroblast

## “日本一海洋プラゴミが流れ着く”対馬で漂着ゴミを素材にソーラーカヤックを作る | 太田信吾 / ハイドロブラスト

日本一海洋プラゴミが流れ着く長崎県対馬市の海岸で漂着ゴミを素材にソーラーカヤックを作るプロジェクト。昨年からアーティストのかのうさちあ氏とともに実験・試作を重ねてきたが、本格的なプロジェクトを2023年夏に実施し、さらにその過程をドキュメントとしてまとめ映像作品・ラップ作品に昇華させる。ゴミもアイデア次第で素材として活用できるということを、これまでにない「漂着プラスチックゴミをカヤックとしてアップサイクルする」過程で地域住民とともに体験し、それを伝えていくことが本プロジェクトの目的である。

太田信吾 / ハイドロブラスト:

日本 / 映画監督・俳優・アーティスト。1985年長野生まれ。早稲田大学文学部卒業。大学では哲学・物語論を専攻。『卒業』がIFF2010優秀賞を受賞。2013年に初の長編ドキュメンタリー映画『わたしたちに許された特別な時間の終わり』がYIDFF2013をはじめ、世界12カ国で配給された。その他、2014年に監督・主演作に劇映画『解放区』、2021年ゆうばり国際ファンタスティック映画祭で優秀芸術賞を受賞した『現代版城崎にて』など。



© Bozzo



## Inner Child | Bady Dalloul (バディ・ダルル)

私は、日本への移住についての映画を作りたいと考えています。移住は第二の誕生だと考えています。人はある国から別の国へ移動することもあれば、心の中だけで移動することもあります。この映画の中で描かれるのは、私自身の移住と他の人々の移住についてです。例えば誕生した赤ちゃんは母国語を覚えるまで、あらゆる言語を理解する能力を持っています。映画の中では、この特定の時期について並行して、新しい土地にやってきた移民が、五感を駆使してその土地を理解しようとし、言語が混ざり合い、マッチする瞬間を強調します。文化的アイデンティティ、帰属意識、そして移住という概念について、より深く考えるきっかけになることを期待します。

Bady Dalloul (バディ・ダルル):

1986年パリ生まれ、フランスのマルチメディアアーティスト。歴史的な出来事、個人的な事実、そしてフィクションを絡めた作品を制作。作品には、自身の遺産と世界的な移民問題についての社会的、歴史的考察が込められている。領土の境界線について考察しながら、西洋を中心とした歴史学と知識の生産のあり方に疑問を投げかける。ドローイング、ビデオ、オブジェを通して、想像と現実の間の対話を促し、歴史記述の論理を問う。



### ◎ 審査員

工藤安代 (NPO法人ART&SOCIETY研究センター 代表理事)

近藤健一 (森美術館シニアキュレーター)

清水知子 (東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科准教授)

相馬千秋 (NPO法人芸術公社代表理事、アートプロデューサー)

藤井光 (アーティスト)

### ◎ 2023年度助成贈呈式を開催

助成団体6団体による、採択プロジェクトのプレゼンテーション、審査員による所感・コメントも発表されます。

日 程: 2023年3月20日(月) 14:30-16:00

場 所: 国際文化会館

東京都港区六本木5-11-16

参加者: 助成受賞団体(オンライン参加含む)、審査員

当財団理事長及び理事

プレス限定: 贈呈式への取材を希望される方は、当財団までお申し込みください。

### 一般財団法人川村文化芸術振興財団

#### ソーシャリー・エンゲイジド・アート支援助成について

一般財団法人川村文化芸術振興財団は、文化芸術により人々の創造性や表現力を育み、よりよき社会の構築を目指すために2017年2月15日に設立されました。当財団は優れた能力を有する芸術家に対し活動を支援し、これまで培われてきた文化芸術を継承、発展させ、独創性のある革新的な文化芸術の創造を促進することを目指します。本助成事業はコミュニティや社会にコミットし、地域社会や住民とともに制作や活動を実施し、より良い社会モデルの提示や構築を目指す国内のソーシャリー・エンゲイジド・アートのプロジェクトに対して、毎年採択しています。助成対象は門戸を広げて年齢・国籍不問とし、海外からの応募も積極的に受け付けています。

#### 本事業および取材・掲載のお問い合わせ

一般財団法人川村文化芸術振興財団

ソーシャリー・エンゲイジド・アート支援助成

東京都千代田区外神田2-15-2

公式ウェブサイト <http://www.kacf.jp/>

E-mail: [info@kacf.jp](mailto:info@kacf.jp)